

大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム

中間評価結果

令和8年1月30日

国立研究開発法人科学技術振興機構

<目次>

1. プログラムの概要	2
2. 中間評価の目的	2
3. 中間評価の概要	2
4. プログラムオフィサー(PO)による総評	3
5. 中間評価結果	3

<対象プラットフォーム名>

- ・ 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)
- ・ みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
- ・ Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)
- ・ Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)
- ・ 関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)
- ・ Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)
- ・ Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)
- ・ Tech Startup HOKURIKU(TeSH)
- ・ Inland Japan Innovation Ecosystem(IJIE)

1. プログラムの概要

「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」は、大学等発スタートアップの創出にポテンシャルのあるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質・量ともに充実させるとともに、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを、参画機関を拡充しながら形成する活動を支援するものです。

2. 中間評価の目的

大学等によるスタートアップ創出の支援プログラムの運営および研究開発チームによる研究開発の進捗状況、成果、課題等を把握し、これを基に適切な予算配分及び計画の見直しを行う等により、プログラム運営の改善に資すること。

3. 中間評価の概要

(1) 評価者

スタートアップ・エコシステム共創委員会

(2) 評価方法

報告書の事前確認及び面接(プレゼンテーションによるヒアリング・質疑応答)

(3) 評価の観点

プログラム実施項目である以下①～③について、それぞれ「ビジョン・目標への進捗」「取組内容」「課題分析と今後の対応方針」の観点で評価した。

- ① 全体
- ② スタートアップ創出プログラムの構築・運営
- ③ スタートアップ・エコシステムの構築に向けた環境整備

4. プログラムオフィサー(PO)による総評

全プラットフォームにおいて、起業に向けた大学等の規程が着実に整備され、スタートアップ創出の基盤が整いつつあることは大きな成果と言える。さらに、起業支援人材の育成が進み、有望シーズの発掘が加速したことで、GAP ファンド STEP1 の応募件数は計画を上回り、採択課題の多様化と質の向上も認められた。

本プログラムによる支援期間の後半では、GAP ファンドでは分野・ステージのバランスに配慮した採択ポートフォリオの構築を進めるとともに、起業支援人材により採択課題の価値を最大限引き出すことを期待する。また、スタートアップ・エコシステムの構築に向けた環境整備ではプラットフォームの参画機関数の拡大を進めると同時に、各プラットフォーム内で支援内容の質と量の平準化を一層推進していくことを期待する。

5. 中間評価結果

6-1	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)4 頁
6-2	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)5 頁
6-3	Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)6 頁
6-4	Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)7 頁
6-5	関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)8 頁
6-6	Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)9 頁
6-7	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)10 頁
6-8	Tech Startup HOKURIKU (TeSH)11 頁
6-9	Inland Japan Innovation Ecosystem (IJIE)12 頁

6-1 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)

1. 活動概要 (HSFC の中間報告書より引用)

北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)では、「アグリ・フード領域」「環境・エネルギー領域」「創薬・ヘルスケア領域」の3つの重点領域と、「ユニコーン志向型スタートアップ」「地域定着型スタートアップ」の創出する2つのスタートアップ像を設定し、本道の課題解決に向けた研究開発型スタートアップの持続的な創出に取り組んでいる。2024年度GAPファンドプログラムではステップ1で20件、ステップ2で5件の研究シーズを採択し、採択シーズの事業化に向けた伴走支援を実施している。2025年度からは、創出するスタートアップ像を前面に押し出し、「ユニコーン志向型SU創出プログラム(U型)」と「ゼブラ志向型SU創出プログラム(Z型)」へプログラムを刷新し、多様なニーズに対応するスタートアップ創出モデルの構築を進めていく。

2. 総合評価結果

主幹機関を中心に各大学とのネットワーク強化を進め、地域の大学等を巻き込むことで参画機関を増やし、GAPファンドプログラムにユニコーン志向型とゼブラ志向型を設定している。また、主幹機関と北海道科学技術総合振興センターの起業支援人材がともに、研究シーズの発掘からインキュベーションまでを支援することで、積極的に共同機関の案件の創出に努めている。

プラットフォーム全体で支援の仕組みや体制が同一水準となるように、今後は道内全域での起業支援人材育成も進めてほしい。

6-2 みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)

1. 活動概要 (MASP の中間報告書より引用)

本プラットフォームが所在する東北・新潟は課題先進地域であり、全国と比べて少子化・高齢化が進み、産業構造では新産業の創出とその人材の定着が求められており、さらに風水害や地震など頻発する災害対策が不可欠となっているなど、全国に先駆けて多くの課題を抱えている。これらの課題を、みちのくアカデミアの研究成果と技術シーズから生まれる大学等発スタートアップによって解決し、東北・新潟を「課題先進地域から課題解決先進地域に変革」し、そして国際展開を通じて「世界を変革」していく。

本プラットフォームは、Deep & Diverse をモットーに大学等の研究成果や技術シーズの事業化とアカデミア発スタートアップ創出に取り組む。

地域内外の枠組みと連携し、東北・新潟において大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するハブ&スポークなスタートアップ・エコシステムの仕組みを形成する。

2. 総合評価結果

参画機関の拡大とともに、起業支援人材を参画機関の各校に配置することが進んでいる。発掘段階から支援するプレエントリー方式を採用することで案件発掘数や GAP ファンドへの応募数が増大し、目標を上回っている。また、参画機関の規程整備をプラットフォーム内で連携しながら完了させた実績は評価できる。

今後、人員や体制の変化にかかわらず、これまで積み上げたノウハウが継承され、拠点のリーダーを中心にしたプラットフォーム運営に活かされるよう進めてほしい。

6-3 Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)

1. 活動概要 (GTIE の中間報告書より引用)

GTIE は、東京都が主宰するスタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム(以下「東京コンソ」)が目指すエコシステムとしての理想的な姿に向けて、GTIE は大学等のアカデミアが自治体、大企業(事業会社)・投資機関・金融機関・イノベーション創出支援機関との連携により、ポテンシャルの高いスタートアップ企業の創設やスタートアップとの協業、スタートアップをスケールさせていくための支援、そして人材やコミュニティの共有・循環等が、それぞれの経済活動や事業の創出・拡大等の目的に合わせて多様かつ創発的に展開されている状態を目指す。

さらに、大学発新産業創出基金事業により、GTIE がビジョンとして掲げる「世界を変える大学発スタートアップを育てる」の実現に向け、世界で活躍するボーングローバルな、社会や環境の課題を解決する視野の広いスタートアップ企業等の創出に向けて、首都圏 18 の大学・研究機関が着実に活動している。

2. 総合評価結果

GAP ファンド運営をしっかりと行い、有望案件が採択されている点、海外との連携が進んでいる点は評価できる。また、各機関に 1 名以上の起業支援人材が配置され、起業支援人材による貢献・成果に期待が持てる。

一方、主幹機関以外の参画機関からの応募、採択件数を増加させるため、参画機関におけるスタートアップ創出支援の体制構築について、一層の努力と工夫が求められる。主幹機関が主導し、プラットフォームとして参画機関に対する積極的な支援を行っていくことが望まれる。

6-4 Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)

1. 活動概要 (Tongali の中間報告書より引用)

Tech Innovation Smart Society の実現に向けて、「グローバル展開を志向するディープテック・スタートアップの創出と、その質・量の飛躍的な拡充」、「大学等発スタートアップの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの構築」を目標に、15 のアカデミアおよび1つの地域インキュベーション拠点の計16機関が連携し、活動を推進している。令和6年2月の活動開始以降、参画アカデミア15機関から合計174チームのエントリーがあり、大学等における起業活動の裾野が着実に広がっている。これまでに累計64チームが採択され、ステップ1からは4社がすでに起業、ステップ1・2あわせて3社が起業準備中である。

2. 総合評価結果

参画機関が一体となってプラットフォーム形成に取り組んでおり、東海地方だけでなく全国に Tongali というブランドの認知度を広めていると言える。

従前の取り組みや成果を上手く発展させ、寄附金を活用した資金調達や起業支援人材の確保・育成等、持続化に向けたプラットフォームとしての活動を着実に進めており、本プログラムにおいてのロールモデルになりつつある。今後は他プラットフォームへの好事例の波及を積極的に進めることを期待する。

6-5 関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)

1. 活動概要 (KSAC の中間報告書より引用)

2024 年 2 月から事業を開始以降、本プラットフォームは京阪神地域から関西一円へと規模を拡大し、2029 年(令和 11 年)3 月までの 6 事業年度で総額 91.4 億円の事業を展開している。SU 創出プログラムでは 400 件以上の申請案件確保を目標に、既に計 2 回のプログラムを実施し、想定以上の成果を上げており、目標を上回る見込みである。プラットフォーム内外機関の連携のもと、それらの採択課題に対して全方位的な起業支援を行うことで持続的にスタートアップを創出していくとともに、全国ネットワーク構築支援事業と連携しつつ、国際展開機能の強化に注力することで、世界市場で通用するグローバルスタートアップの輩出を可能とする起業環境を構築して、社会課題の解決に貢献していくものとする。

2. 総合評価結果

グローバルスタートアップの育成・創出に向けての積極的な取り組みは、他のプラットフォームにとっての好事例になると言える。また、京都大学および大阪産業局により共同機関の案件発掘や伴走支援を実施するとともに、各大学の起業支援人材の交流や、起業支援体制の拡充を図っている点を高く評価する。

今後は、プラットフォームとして参画機関全体の支援体制の質をより高めながら、グローバルスタートアップの成功事例が提示されることを期待する。

6-6 Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)

1. 活動概要 (PSI の中間報告書より引用)

PSI では、主幹機関が共同機関の担当理事・産学連携部門責任者等を直接訪問して、ビジョンの共有・エコシステムの一体化を引き続き行った。

実務面では、全ての SU 創出共同機関をメンバーとする「戦略会議」を設置しており、原則、毎月実施することにより、情報共有を図るとともに、必要な議題を協議している。

起業・事業化支援として、GAP ファンド ステップ1の採択者を対象に、資金支援のみならず、「アクセラレーションプログラム」として、事業開発を推進するためのスキル、ノウハウ及びマインドセット習得の機会を提供した。また、並行して「PSI 起業支援人材(外部からの採用者)」による伴走型支援を初めて実施した。

「アクセラレーションプログラム」の効果を高めつつ、PSI 起業人材の能力開発を行うため、外部のエキスパート人材を活用し、開発案件推進のためのメンタリングを踏まえたプロジェクトマネジメントを実施した。

プログラムのマイルストーンの位置付けとして、総勢 180 名を超える人数を収容した「Demo Day」を実施することにより、採択者にとって、VC や企業との接点を強化することに大きな意味を持つものとなった。

2. 総合評価結果

主幹機関のリーダーシップのもと、GAP ファンド運営、起業支援人材育成、規程整備等、中四国全体をカバーするプラットフォームのエコシステムの基盤づくりが進捗した。また、大学横断的に人材を配置し支援している事例は他のプラットフォームにも参考になると言える。

創薬系の領域においては、広島大学 PSI GMP 教育研究センターの整備等により、優れた支援システムが構築されているが、創薬系以外の領域・分野についても、その特性に応じたサポートシステムおよび体制を構築することを期待したい。

6-7 Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)

1. 活動概要 (PARKS の中間報告書より引用)

PARKS では、3 ステップによる起業支援プログラムを構築し、2024 年度は計 58 件を採択した。採択されたチームには、プレ CXO の配置を目的としたマッチングサービスやフェーズ・分野ごとのインキュベーションプログラムを提供した。さらに、プラットフォームとして EIR の雇用、海外事業展開可能性調査等も実施している。また、Step2 では、ステージゲート制度を設け、PARKS 独自のマイルストーンによる進捗管理と、進捗が著しいチームについては Spte2-2 への早期昇格も可能としている。また、採択全チームに DemoDay での対外的なピッチの機会を提供している。

これらの結果、2 件の起業(2025 年 7 月に追加で 1 件)、106 人の起業支援体制構築に加え、2025 年にはインターユニバーシティ志向の VC の創生なども実現した。

2. 総合評価結果

各機関によるシーズ発掘活動の徹底強化が GAP ファンド申請数増加に繋がっている点と、募集分野の細分化や、採択課題支援でステージゲート制度の設置といった、GAP ファンドの審査及び課題支援における工夫を高く評価する。また、プレ CxO 制度といった、経営者候補人材の確保に向けた取り組みを先進的に実施していることは他のプラットフォームのモデルになるものと言える。

今後の要望として、主幹機関以外の大学における起業支援人材育成の強化等に取り組むことでプラットフォーム全体の底上げを図ってほしい。

6-8 Tech Startup HOKURIKU (TeSH)

1. 活動概要 (TeSH の中間報告書より引用)

TeSH は、これまで後れを取っていた北陸地域のアカデミア発スタートアップを質量ともに格段に進歩させることを目的とするプラットフォームです。スタートアップ創出の経験がない機関にも参加してもらい、13 大学・3 高専が一丸となって、産官金や VC の支援を得ながらスタートアップ・エコシステムの構築に取り組んでいます。これまで 155 のシーズを発掘し、スタートアップを目指す 54 の GAP ファンドを採択しました。参画機関は、学 16、産官金等の協力機関 49、事業化を支援する VC 等 35 と、発足時 46 機関の約 2 倍の 100 機関に拡大しました。また、スタートアップ創出に必要な特許支援体制、学内規則の整備も進めました。いよいよスタートアップ創出に向けてアクセルを吹かします。

2. 総合評価結果

他プラットフォームの好事例を積極的に取り込みながら、急速にプラットフォームを立ち上げ、進捗が進んだ点は高く評価できる。また、主幹機関同士の連携も密であり、主幹機関のトップが責任を持ってプラットフォーム運営を進めている。

北陸スタートアップ・エコシステム・コンソーシアム が内閣府の NEXT グローバル拠点都市に採択されたことにより、今後、人事交流も含めて富山県・石川県・福井県等の自治体や、地域金融機関、地域企業等も巻き込んだ形でより北陸一体となった推進体制を構築していくことを期待する。

6-9 Inland Japan Innovation Ecosystem (IJIE)

1. 活動概要 (IJIE の中間報告書より引用)

甲信・北関東の大学の特色ある研究成果・技術シーズに基づく起業を自治体、金融機関等との連携により推進し、スタートアップ創出・成長加速エコシステムを実現するためのプラットフォームを共創した。主幹機関である信州大学に事務局を設置するとともに、SU 創出共同機関に起業支援人材を配置し、起業シーズの発掘・育成を実施した。さらに、大学発の起業シーズの事業化に向けて、GAP ファンドプログラムを運営し、事業化推進機関、経営者候補人材等と連携し、大学発起業シーズの事業化を推進した。また、地域・社会課題の解決と持続可能な成長の両立を目指して、新たな公募枠を設定し、社会課題解決型スタートアップの創出に着手した。

2. 総合評価結果

プラットフォームのビジョン・目標達成に向けて、各機関での支援体制の整備や、案件発掘、スタートアップ創出プログラムの公募・採択等を着実に実施するとともに、地域の社会課題解決に向けた起業を支援する「インパクトビジネス枠」を設置する等、一定の進捗が認められる。

一方で、GAP ファンドが「資金提供により社会実装に不足している課題の解決に繋げる目的」であることへの理解を徹底し、他プラットフォームの事例も参考に、今後プラットフォームとしてどのような課題を支援すべきかを改めて検討してほしい